

ACCESS 交通案内



薬剤部概要

旭川駅から〈バス・タクシー〉

-  ●旭川駅前緑橋通りから乗車(旭川電気軌道バス)
71番 医大行(緑東大橋経由/所要時間35分)
医大病院前停留所(終点)下車
- 1条7丁目から乗車(旭川電気軌道バス)
80・81番 医大行(神楽経由/所要時間30分)
医大病院前停留所(終点)下車
-  ●所要時間15分(料金/約1,600円)

旭川空港から〈バス・タクシー〉

-  ●旭川空港から乗車(旭川電気軌道バス/道北バス/ふらのバス)
旭川市内行(所要時間30分)医大前下車
-  ●所要時間20分(料金/約3,000円)

札幌駅から〈JR〉

-  《札幌—旭川》
●L特急スーパーカムイ(所要時間1時間25分)
- 新千歳空港駅から乗車(千歳線・函館本線)
快速エアポート〈札幌からL特急スーパーカムイ〉(所要時間2時間)



国立大学法人 旭川医科大学
旭川医科大学病院

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
TEL.0166-65-2111(代表)
http://www.asahikawa-med.ac.jp/index_h.php

ASAHIKAWA MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL
DEPARTMENT OF HOSPITAL PHARMACY AND PHARMACOLOGY

国立大学法人 旭川医科大学
旭川医科大学病院

北の大地から、医療をささえ未来につなげる

- 適正かつ安全な薬物療法を提供します。
- 薬学生・医学生、専門・認定薬剤師の実習・研修を積極的に行います。
- 薬物治療の新しいエビデンスを構築するため、常に探究心を持って業務に取り組んでいます。



ごあいさつ



薬剤部長・教授
田崎 嘉一

旭川医科大学病院薬剤部の特徴は、従来から先進的な業務展開を行っていることです。例えば、今では当たり前になっている病棟薬剤師配置は平成11年から外科病棟に配置しており、日本で最も古くから継続的に配置している病院です。現在ではICUを含む全18病棟に病棟常駐をしており、患者さんには安全で最適な薬物療法を提供しています。その他にも特徴的な業務は、200ml以上のすべての輸液を薬剤部で無菌調製、在庫管理・発注の自動化、プロトコルに基づく処方支援、手術室での麻酔薬準備による麻酔科医支援などです。これらの取り組みは、他の医療スタッフからも評価されており、多くの見学者が訪れて、他の病院に取り入れられている業務も多くあります。また薬剤部は、何よりも部員1人1人が力を発揮できるような体制づくりを心掛けています。

新人薬剤師へは、業務に関する指導だけでなく、学会発表等の指導や学位取得支援など、自己研鑽を考えている人には最も適した環境であると思います。日本最北にある医科大学病院の薬剤部として、チームワーク力を最大限に生かして、患者さんから信頼される薬剤師・薬剤部を目指した業務展開を、今後も日本全体や世界に向けて発信していきたいと考えています。その一員として生き生きと働きたいと考えている方がいれば、ぜひ私達の仲間に加わってほしいと思います。

病院の理念 *philosophy*

大学病院としての使命を認識し、病める人の人権や生命の尊厳を重視した先進医療を行うとともに、次代を担う国際的にも活躍できる医療人を育成する。

病院の概要 *summary*

- 病 床 数 602床
- 診 療 科 目 19診療科
- 平均外来患者数 1,540人/日
- 平均在院日数 13.6日
- 病床稼働率 84.3%
- 手術件数 約7,500件/年
- 特定機能病院
- 災害拠点病院
- エイズブロック拠点病院
- 臓器提供病院
- 日本医療機能評価認定 (V.6)
- 赤ちゃんにやさしい病院認定
- 地域がん診療連携拠点病院
- 北海道高度がん診療中核病院
- 肝疾患診療連携拠点病院
- 地域周産期母子医療センター
- 救命救急センター
- 働きやすい病院評価 (ホスピレート) 認定
- 道北ドクターヘリ事業の道北基幹病院

薬剤部基本情報

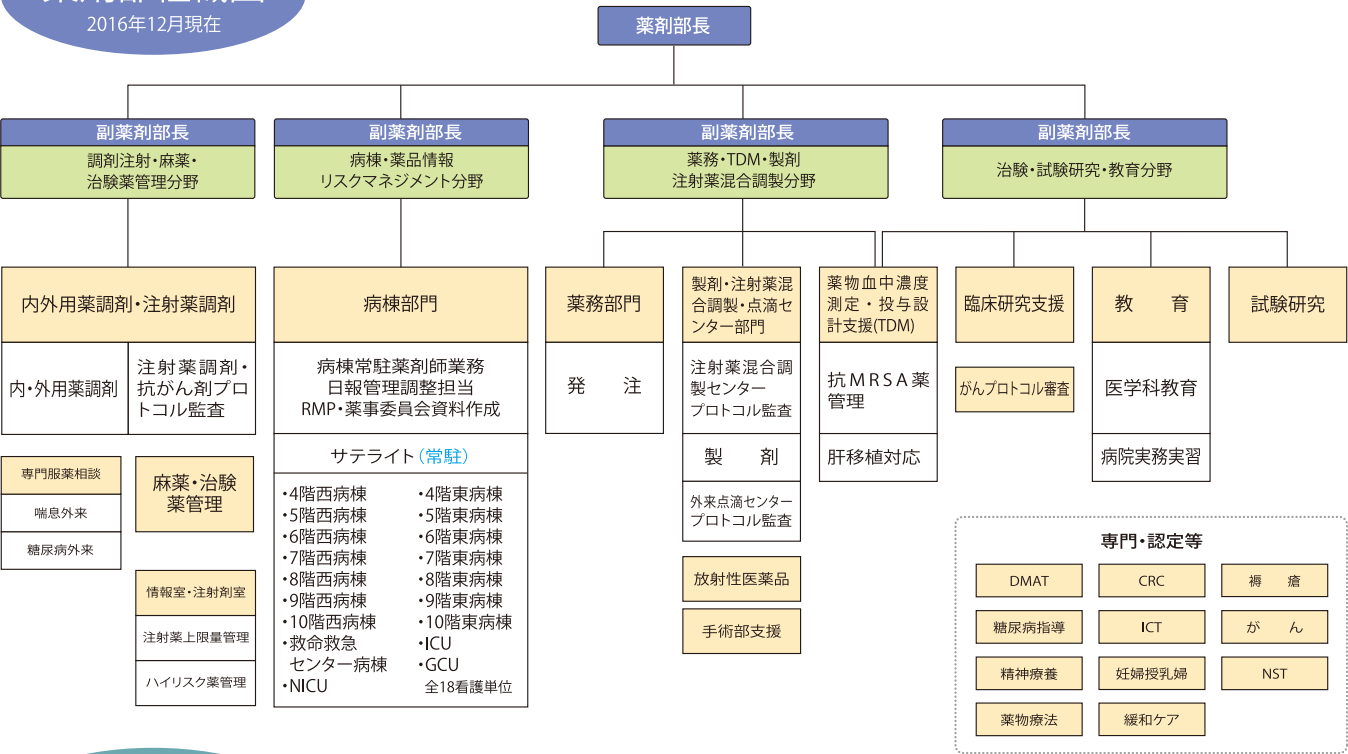
薬剤部の概要

(日本病院薬剤師会 2016年6月 病院薬剤師部門の現状調査より)

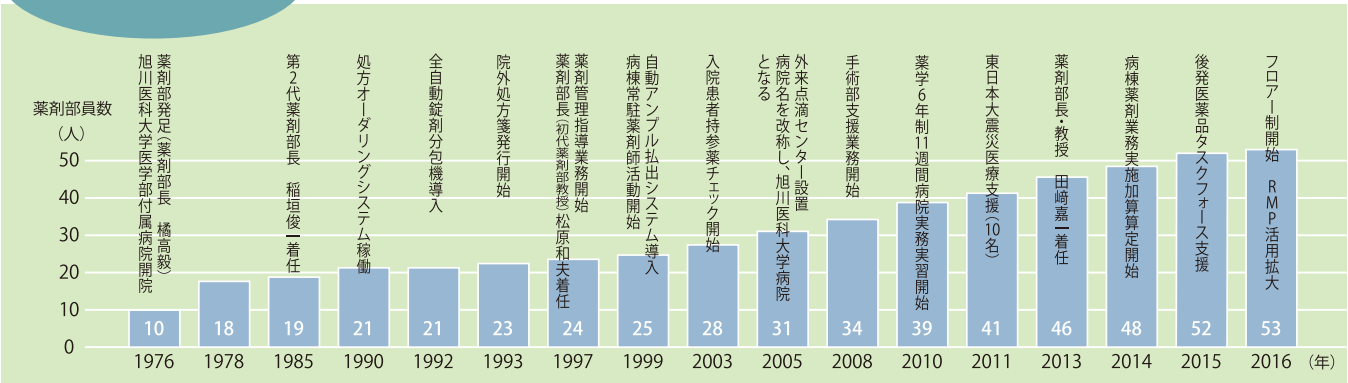
- 外来院内処方せん枚数 1,027枚/月
- 外来院外処方せん枚数 16,475枚/月
- 院外処方せん発行率 94%
- 入院処方せん枚数 9,971枚/月
- 注射剤処方せん枚数 5,423 (入院) 620 (外来)
- 長期実務実習受け入れ人数 22人/年
- 緩和ケアチーム
- 栄養サポートチーム (NST)
- インфекションコントロールチーム (ICT)
- HIV対策チーム
- 褥瘡対策チーム

薬剤部組織図

2016年12月現在



薬剤部沿革



*RMP: 医薬品リスク管理計画



患者中心の医療の実践へ



良質で安全な薬物療法に貢献しています

安全管理の基本は、「人は誰でも間違える」ということを前提に、過ちを誘発しない環境や過ちが事故につながらないシステムを組織全体として整備し、安全で質の高い医療を提供することにあります。とりわけ複雑化、高度化した薬物療法が行われている中で、調剤過誤防止対策にとどまらず、リスクマネジメントにおける薬剤師の役割は重要です。そのため、薬剤師は知識や経験を積み重ね、その職能をスキルアップさせる必要があります。



病棟・薬品情報・リスクマネジメント分野 副薬剤部長 小川 聡

常に新たな医療薬学の見識をもって診療の一面を担っています

調剤室

調剤室では処方せんによる調剤を主な業務とし、様々な対策を行い調剤業務を実践しています。電子カルテシステムからの処方入力情報と調剤支援システムを接続し、一包化・散剤・自動調剤棚（mille）等の機器と連動することにより、正確で効率的な調剤を行っています。処方せん発行時には、薬歴や臨床検査等の患者情報が記載された「処方せんチェックシート」を出力し、個々の患者に合わせた調剤・監査を行っています。院内外来処方においては、外来指導記録票を用いた服薬指導を実施し、薬剤の適正使用を推進しています。また、プロトコルによる処方せんの代行入力（処方の修正・変更・削除）を行っており、医師の業務負担軽減に寄与しています。



注射薬払出部門

注射薬払い出し部門は、入院定期注射薬オーダの患者別個人払い出しと臨時使用注射薬の払い出しを主な業務とし、注射薬が安全に使用されるよう投与速度、投与経路、投与時間、相互作用、配合変化などをチェックしています。また、カリウム製剤等、誤った使用により大きな影響を及ぼす可能性がある薬剤をハイリスク薬として特に区別し、ハイリスク薬のオーダ毎に使用方法の妥当性を確認しています。その他、消毒薬や処置薬も含め、薬品の供給と品質確保を含めた在庫管理を行っています。在庫管理については、オーダ情報と連携して在庫管理が行える、在庫管理システムを構築しており、発注や在庫確認（棚卸業務）を自動化することが可能となっている。



製剤室



院内特殊製剤とは、患者の状態、疾患の種類や程度、治療効果あるいは規格、包装単位等の理由により、医療用医薬品では十分に対応できない場合に院内で製造又は調製する製剤を指します。現在、医薬品等臨床研究審査委員会（IRB）において倫理性や使用の妥当性について事前に審査を行っています。様々な器具を用いて内用・外用・注射薬剤等多くの院内特殊製剤の調製を行っており、現在、自費診療として美容クリーム等の調製も手がけています。

注射薬混合調製センター

注射薬混合調製業務は全病棟を対象とし、入院注射オーダのうち、混合調製可能な定時に入力された200ml以上の輸液・補液を含む注射薬と、調製が必要なほぼすべての抗がん剤を対象として調製を行っています。抗がん剤に関しては更に、プロトコルをもとに患者個別情報に合わせて注射オーダの妥当性をチェックしています。また、2010年5月より抗がん剤調製のオンコール体制が導入され、24時間体制で対応しています。



外来点滴センター

点滴センターは外来患者さんが抗がん剤治療を受ける施設です。専任薬剤師が、安全で確実な外来がん化学療法の実施に努めています。抗がん剤が正しい投与方法（プロトコル）の通りに処方されているか、投与量、投与スケジュールなどを確認します。抗がん剤を含む注射剤全般を無菌的に調剤します。処方せんや検査値などの確認も行います。患者さんと面談し、副作用の観察や聞き取り、服薬指導を行っています。



薬品情報室

薬品情報室では、薬の専門家として医薬品情報を収集・評価し、院内スタッフへ提供することで良質かつ適切な薬物療法に寄与できるよう活動しています。医薬品以外にも疾患に対する知識など幅広い知識が必要とされます。また、病棟薬剤師と密接に連携をとることで、副作用情報の収集や医薬品適正使用に貢献しています。



薬剤部員が一丸となった薬剤業務の展開・充実と チーム医療・病院運営への貢献

病棟薬剤師業務



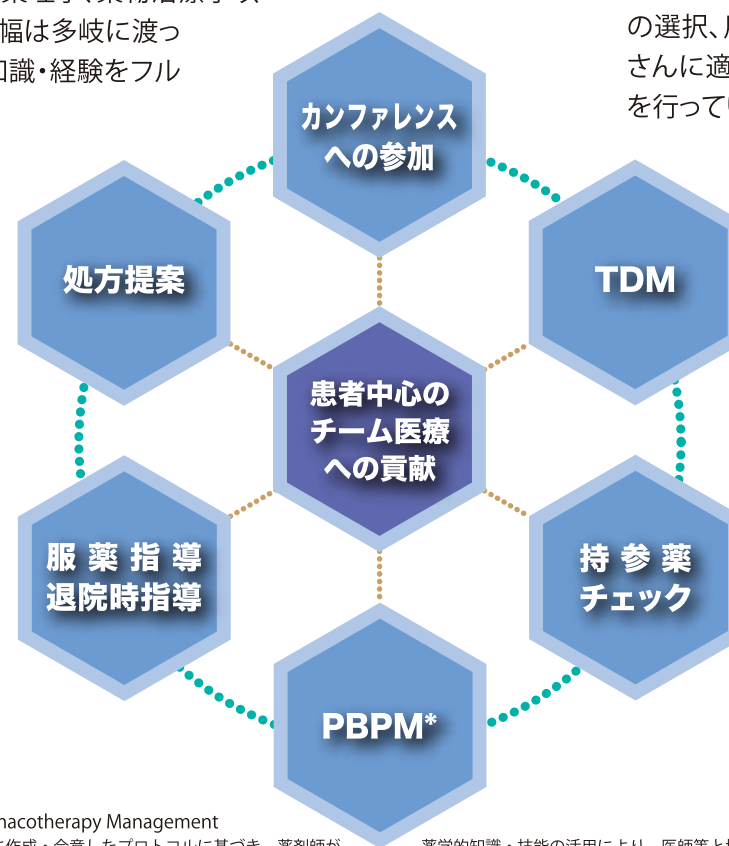
旭川医科大学病院は第3次救急医療機関として位置付けられており、24時間365日緊急入院患者さんを受け入れている病棟です。他病棟と違い診療科の括りに関係なく入院されるため、薬剤や治療に関する幅広い知識が求められます。また薬物中毒にて入院されるケースもあるため、拮抗薬や対症療法薬剤の提案なども行っています。薬理学、薬物治療学以外の様々な分野の知識も求められており、活動の幅は多岐に渡っているため、大学で学んだ事や就職後に学んだ知識・経験をフル活用しながら、日々病棟業務を行っています。

救命救急センター 櫻庭 好祐

当院は全国に14施設あるHIV/エイズ診療ブロック拠点病院に指定され、HIV対策チームを運営しています。薬剤師もそのメンバーとして活躍しています。対策チームは道北・オホーツク地区の拠点病院との会議、研修会を実施しております。また、薬剤師は患者さんの相談応需、服薬指導を実施します。さらに医師・看護師への情報提供や看護師からの服薬に関する相談などに対応しています。針刺し事故予防内服薬を最新のガイドラインに対応した薬剤選定の提案等も行っています。



8階西病棟 井上 正朝



*Protocol-Based Pharmacotherapy Management
(医師・薬剤師等が事前に作成・合意したプロトコルに基づき、薬剤師が

薬学的知識・技能の活用により、医師等と協働して薬物治療を遂行すること)



9階東病棟 飯田 慎也

小児科病棟では、入院されるお子さんの年齢や発達段階によって薬物動態が異なるため、それらを考慮した適切な薬剤の選択、用量の調節が必要となります。薬剤師は個々の患者さんに適切な薬物治療が行われるよう処方や投与量の提案を行っています。また、治療を行う上では患者さん自身の協力が必要となるため、親御さんだけでなくお子さん自身にも理解できるような服薬指導を心掛けています。

4階西病棟 谷 香苗



血液腫瘍内科・頭頸部外科病棟では、がん化学療法が多く行われています。使用される抗癌剤も多いため、副作用に対する支持療法の検討が必要になります。そのためには、他職種との情報共有、バイタルや臨床検査値などをもとに、患者さんと直接面談し、副作用のモニタリングを行います。患者さんの状態把握に加えて、薬理学、薬物動態学の知識を活用した薬剤の提案をすることが、病棟薬剤師の重要な役割の1つだと感じています。

5階西病棟 岩山 百華

各種チームにも参画しています

●栄養サポートチーム (NST)

NSTとはNutrition Support Teamの略で、栄養療法を医師、看護師、薬剤師、栄養士らが集結して行うチーム医療の一つです。NSTは、高度な臨床栄養管理をチーム医療として実施することを目的とし、2004年から活動を開始しています。現在、薬剤部から2名の日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士の薬剤師が、NST委員会、NSTラウンドに参加しNSTの一員として活動しています。

7階東病棟常駐薬剤師 (NSTメンバー)・薬剤部長補佐 山下 恭範



●インфекションコントロールチーム (ICT)

現在4名の薬剤師がインフェクションコントロールチーム (ICT) のメンバーとして活躍しています。薬剤師が主にICT活動の中で活躍する分野は、薬と感染制御に関わる部分が大部分を占めています。具体的には、1) 特定抗菌薬使用状況の管理、2) 各種ラウンドへの参画、および3) 病院感染対策マニュアル作成 (消毒薬・抗菌薬分野) 協力等があり、特に1、2)に関しては、抗菌薬適正使用ラウンドにおいてICTメンバーの医師および看護師と協働で、広域スペクトルを有する薬剤の使用状況を定期的にモニタし、必要に応じ病棟において介入と提案を行っています。

TDM担当薬剤師 (ICTメンバー) 山本 譲



より専門的な知識・技術を医療現場へ

教育・実習受け入れ

当院は大学病院であるため、薬剤部では医学科や看護学科に対する教育や、医師卒後臨床研修ならびに看護部研修の一部も担当しています。次世代の医療を担う薬剤師の育成のため、薬学生の病院実務実習では手術部における薬剤セット業務やトリエージを使用した中毒医療への関与、治験業務ならびに法医学講座との連携による法医解剖見学など、幅広く実習に取り入れています。また、チーム医療を実践する能力を涵養するため、実習を可能な限り病棟で行うスケジュールとしています。長期実務実習以外にも、各大学の早期体験実習にも柔軟に応じています。地域医療に貢献できる薬剤師の育成を目的として、長期・短期の保険薬局薬剤師の実務研修制度も取り入れています。専門・認定薬剤師関係では、認定薬剤師、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師（いずれも日本医療薬学会）、がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）、日本臨床薬理学会認定薬剤師（日本臨床薬理学会）ならびに小児薬物療法認定薬剤師（日本薬剤師研修センター）の研修施設にも認定されています。

薬品情報室担当薬剤師 **大滝 康一**



【認定・専門薬剤師等取得状況】

●日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	14名
●日病薬認定指導薬剤師	1名
●日本病院薬剤師会認定	
がん薬物療法認定薬剤師	1名
感染制御 専門薬剤師	1名
感染制御 認定薬剤師	2名
妊婦・授乳婦 薬物療法認定薬剤師	1名
●日本医療薬学会	
指導薬剤師	8名
認定薬剤師	11名
認定がん指導薬剤師	2名
認定がん専門薬剤師	2名
●日本臨床薬理学会	
指導薬剤師	2名
認定薬剤師	1名
認定CRC（薬剤師）	2名
●日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士（薬剤師）	2名
●日本医療情報学会 医療情報技師（薬剤師）上級を含む	1名
●日本糖尿病療養指導師認定機構糖尿病療養指導師（薬剤師）	1名
●日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師	1名

（平成28年12月現在）

【施設認定】

●日本医療薬学会	
認定薬剤師制度 研修施設	
●日本医療薬学会	
薬物療法専門薬剤師制度 研修施設	
●日本医療薬学会	
がん専門薬剤師研修事業 研修施設	
●日本病院薬剤師会	
がん薬物療法認定薬剤師研修事業 研修施設	
●日本薬剤師研修センター	
薬局・病院実務 研修施設	
●日本薬剤師研修センター	
小児薬物療法認定薬剤師 研修施設	
●日本臨床薬理学会	
認定医制度 研修施設	
●薬学協議会	
薬学生実務実習 受入施設	

（平成28年12月現在）

薬物治療の安全性と有効性を高めるために ～from Bench to Bedside～



試験研究室では、患者さんに最適な薬物療法を提供できるよう、調査活動や薬物の体内動態・薬効評価および遺伝子多型解析を中心に、くすりの安全性と有効性を高めるための基礎研究、並びに診療科と協力した臨床研究（抗パーキンソン病薬、分子標的抗がん薬、免疫チェックポイント阻害薬など）も行っています。



准教授・副薬剤部長
福土 将秀

【2014～2016年 主な原著論文】

- Target-controlled infusion and population pharmacokinetics of landiolol hydrochloride in patients with peripheral arterial disease. Kunisawa T, Yamagishi A, Suno M, Nakade S, Honda N, Kurosawa A, Sugawara A, Tasaki Y, Iwasaki H. Ther Clin Risk Manag. 11:107-114 (2015)
- Multicolor-based discrimination of 21 short tandem repeats and amelogenin using four fluorescent universal primers. Asari M, Okuda K, Hoshina C, Omura T, Tasaki Y, Shiono H, Matsubara K, Shimizu K. 494:16-22 (2016)
- Pharmacokinetic analysis of drugs for pediatric pulmonary hypertension. Nakau K, Sugimoto M, Oka H, Kajihama A, Maeda J, Yamagishi H, Kamiyama N, Tasaki Y, Kajino H, Azuma H. Pediatr Int. in press (2016)
- 薬学的介入記録票解析による病棟薬剤師業務の効果検証。大滝康一, 栗屋敏雄, 飯田慎也, 原千恵子, 山下恭範, 小野尚志, 井上正朝, 木村周古, 田原克寿, 吉田光一, 山本香緒里, 山本久仁子, 小川聡, 福土将秀, 松原和夫, 田崎嘉一。医療薬学. 40:463-470 (2014)
- マクロライド系抗菌薬の処方実態に基づく慢性炎症性疾患に対する少量長期療法の有効性に関する再検証ー常用量投与との比較ー。岩山訓典, 堀内翔太, 栗屋敏雄, 大滝康一, 田崎嘉一, 松原和夫, 早勢伸正. 薬局薬学. 6:157-166 (2014)
- 薬剤師による継続的な吸入指導がもたらす喘息外来患者の喘息コントロール改善効果. 井上正朝, 内山直樹, 長嶋 恵, 櫻庭好祐, 川崎裕世, 寒藤雅俊, 大井希美, 笠茂紗千子, 大滝康一, 小野尚志, 福土将秀, 栗屋敏雄, 松原和夫, 田崎嘉一. 医療薬学. 42:620-625 (2016)

専門家を目指し活躍できる環境があります

薬剤師は実臨床において幅広い分野の知識が求められます。一方で、医療分野の細分化が進み、特定の分野に対して深い知識と経験をもった認定・専門薬剤師も求められています。当院には様々な分野の認定・専門薬剤師が在籍しており、活躍の場を広げています。また、当院は認定・専門薬剤師等を取得できる環境が整っており、認定取得を目指す薬剤師を積極的にサポートしています。特定の分野を突き詰めたいという意欲のある方々をお待ちしています。



日本医療薬学会認定がん専門薬剤師 **木村 周古**

新人

薬剤師としてのキャリアアップ



● 麻薬管理業務担当薬剤師
山本 香緒里



Dr. J. H. Kim

●外来がん治療認定薬剤師
6階東病棟担当 **新田 悠一郎**



●薬品情報室担当薬剤師
春名 柚佳



職 務 内 容	薬剤師業務全般
応 募 資 格	①薬剤師免許取得見込の者 ②薬剤師免許所有者
勤務地・場所	北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 旭川医科大学病院 薬剤部
給与・待遇 2016年12月現在	基本給／経験により加算あり 大学(6年)卒業後に博士(4年)修了者 月額:227,300円 大学(6年) 月額:205,300円 大学(4年)卒業後に修士(2年)・博士(3年)修了者 月額:213,400円 各種手当／通勤手当、住居手当、扶養手当、寒冷地手当(11～3月)、期末手当、勤勉手当、 超過勤務手当、当直手当等 退職手当／支給
勤 務 時 間	週38時間45分(1日7時間45分、変則2交替制)
休 日	週休2日制
休 暇	年次有休休暇、特別休暇、病気休暇
保 険	国家公務員共済組合、雇用保険、労災保険
福 利 厚 生 等	職員宿舍、学内保育所、ローソン、スターバックスコーヒー、レストランななかまど
応 募 方 法	次の書類を下記の提出先まで郵送してください。 (1)履歴書(市販様式、写真貼付) (2)成績証明書 (3)薬剤師免許証(写)(所有者のみ)
選 考 方 法	筆記試験及び面接試験
問い合わせ先	旭川医科大学病院 薬剤部 TEL:0166-69-3495 e-mail:pharmacy@asahikawa-med.ac.jp
応募書類提出先	〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 旭川医科大学総務部総務課人事第一係／TEL:0166-68-2123 (注)応募書類を郵送する場合は、封筒に「薬剤師応募書類在中」と朱書きしてください。

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/pharmacy/>

